

3-1

what の基本

使いこなすための確認事項

— [1] what と他の関係詞との決定的な違い = 先行詞を含む —

まずは、基本構造の確認から。

関係詞 **what** は、後続に「空席」つきの不完全文がくるという点では、他の関係代名詞 **which** や **that** と共通ですが、「**先行詞を含む**」という点が **which** や **who** などと根本的に異なる点です。いい換えれば、**what** は「**直前に名詞が置かれて、その説明をする**」ものではないということです。

次の文を見てください。

- **What** he said yesterday was a downright lie.

「昨日彼の言ったことは、まったくのうそだった」

✂ (What he said ● yesterday) was a downright lie.

✂ の図解を見ればおわかりのように、**what** の後続は **said** の目的語が欠ける「不完全文」であり、さらに **what** 節全体が **was** の主語である名詞 (名詞節) となっています。これを一般的にまとめれば、

▶▶▶ what の基本原則

- ① 後続は不完全文 (Sなし、Oなし)
- ② 先行詞を含む (what を含む節全体は名詞として機能する = 名詞節)

what 節の訳語は基本的には、「…するもの・こと」と押さえます。(「基本的に」というのは、つねに「もの・こと」という訳語になるとは限らず、状況に応じてさまざまな意識が可能であるからであり、逆に日本語の「もの・こと」がつねに **what** で表現できるとは限らないからです。この問題は3-2を参照してください)

102 ✂ = 関係詞を含む構造を視覚的に分析

● = 本来なら名詞があるべきなのに、それが欠落している箇所 (文中の“空席”)

②のように、**what** 節は「名詞」として機能しますから、次のようにさまざまな場面で用いられます。

- **What** he says is always logical.

「彼のいうこと (→彼の発言) はいつも理路整然としている」

☞ 主語になるケース

- Don't put off till tomorrow **what** you can do today.

「今日できることを明日まで延ばすな」(ことわざ)

☞ 動詞の目的語になるケース

- This is not **what** I mean.

「これが私の言いたいこと (→本音) ではありません」

☞ **be** 動詞の補語になるケース

- From **what** I've heard, they did a good job.

「聞くところでは、彼らはよくやったようです」

☞ 前置詞の目的語になるケース

what の直後に **I think / believe / say** などの **S V** が入り込むこともよくあり、「～が考える/信じる/いうところの…」といたい場合の表現に適しています。

- Israel attacked **what it said was a terrorist training camp** in Syria in retaliation for the suicide bombing.

「イスラエルは、自爆テロの報復として、シリアにある、彼らのいうテロリスト訓練地を攻撃した」

✂ Israel attacked (what {it said} ● was a terrorist training camp in Syria) ...

この構造については4-4 (p. 157) で詳しく扱います。